

1. 中国の地理的条件

大河は長江と黄河

- ・ 両者とも東西に流れる
- 東西への移動は容易

北部はモンゴル高原

西部はチベット高原と乾燥地帯

- ・ 遊牧地帯が広がり、遊牧民が居住



2. 農耕社会と遊牧社会

農耕社会とは

- ・ 農業を主産業とする社会
- ・ 大土木工事が必要。また、農業は共同作業 → 指導者の出現（権力者）
- ・ 土地が広ければ収穫量が多い、人口が多ければ収穫量が多い
- ・ 人々は一定の場所に定住

遊牧社会とは

- ・ 遊牧と交易を主産業とする社会
 - ・ 個人個人がそれぞれの機転を効かせることで生活 → 集団は安全保障のために存在
 - ・ 土地を直接所有・支配することにはあまり意味がない
- 交易路の安全確保は重要

ということは、中国と周辺部で社会構造が違う

→ 国家の制度（法体系、支配体系、税制が違う）

周辺部

部族制・全体を束ねる絶対権力者は少ない
交易路の安全が確保されている上で交易活動をする
定住民とは違う支配・税制

中国（農耕）

皇帝が絶対的権力者
人口が多い、領土が広い（直接領土支配が必要）と強くなる
定住民に対する支配・税制

北方民族が中国に侵入した場合、騎馬による軍事力が強み

But

農耕社会を支配するにはそれなりの仕組みが必要

→ 漢民族に同化（する必要）、同化すると北方民族の優位が失われる

3. 中国の王朝が発展するには

周辺部

この部分は交易ができれば良い
支配（直接領土支配でなくても良い）をし、交易を保証すれば儲かる

中国（農耕）

この部分では領土が広い・人口が増加すれば良い
→領土拡張・平和が続く・食糧が足りる等

- 交易路は草原の道、絹の道、海の道
- 長安はシルクロードのスタート地点
- 交易路を支配する（＝ 西域経営をする）ができれば長安を拠点に交易ができる

この状態ができることで、農耕による利益（最大は決まっている）に加え交易による利益（無限）を加えることができる

西域経営に成功した王朝 = 漢、後漢、唐 → 西域経営の失敗は国家の衰退につながる

隋の煬帝による大運河の建設

- ・ 南北を結ぶ交通路の完成
- ・ 中国の地形的な条件を克服

南方の食糧を北方に運ぶことができる

→ 農耕社会の拡大・安定をもたらす

南方と北方の物資の移動が可能

→ 海の道の利益を北方が享受



※隋の時代は大運河を中国社会の中で有機的に繋げ利用することができていなかった

※唐の時代になると利用が進む（唐代半ばには長安より洛陽の経済規模が大きくなっている）

唐の時代には長安の発展とともに市舶市が設置され海の道による交易が盛んになっている

宋の時代になると大運河の活用ができるようになる（都は開封）

元の時代になると、北京までつながった大運河と草原の道がつながる = 大交易国家

4. 中国内の南北の差

華北 = 政治の中心地（長安、洛陽など）、経済や技術も発展、昔から人口が多い

河南 = 稲作の中心地（穀倉地帯）、経済や技術は遅れ、人口が少ない

※華北から河南への移住が行われると、華北から資本・技術が運ばれてくる
（そもそも、人口が増える）

→ 河南の発達

※この物資を華北に運べれば、華北にできた中国王朝はさらに発展する

5. 中央集権化

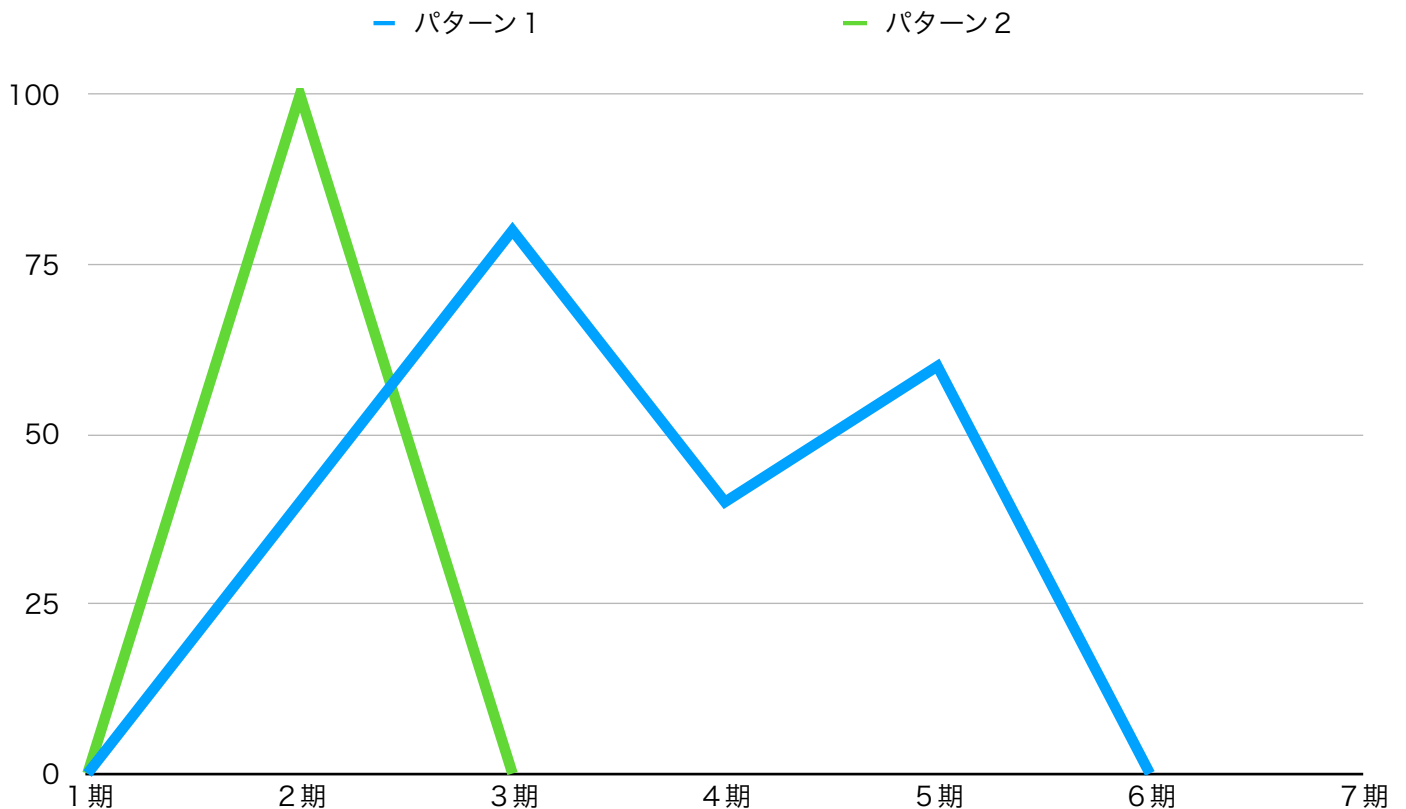
皇帝を中心とした独裁国家を目指しているのが中国王朝

各地の有力者（豪族）の力を削ぐ必要

そのために必要なこと：大土地所有の制限と官僚制の整備

→ 土地制度と選挙制度を理解しよう！

6. 王朝の盛衰について



建国：太祖、高祖など○祖

2代目：太宗

武帝など = 戦争、領土拡大

文帝など = 政治、仕組みを整える

○祖は中興の祖にも使う

ことが多い・・・・・・・・

農民反乱

不満があって反乱を起こす

→ 反乱後のビジョンはない

すると、反乱で終わってしまう

そもそも、中国は面積が広い

(例：中華人民共和国は959万km²、ヨーロッパ州は1053万km²で50の国家)

→ 元々は各地に農耕社会が成立

【 殷：神権政治（祭政一致） 】

【 周：封建政治（礼政一致） 】

この時代は各地で権力者がいる状態（一つの国家になっていない）

【 春秋戦国時代：諸侯が争っている（当然、分裂）

鉄製農具と牛耕の普及 → それまでの氏族制社会の崩壊、実力主義へ

各諸侯は自勢力の拡大のための政策を実施

→ 諸子百家の活躍

【 秦 】：始皇帝による中国統一

(文字 = 篆書、貨幣 = 半両銭、度量衡、車軌など)

→ 各地の権力者（豪族）を従わせる = 中央集権化の必要がある（法家による支配）

< ここで959万km²の範囲が中国という一つの領域になったと思えば良い >

急激な中央集権化によって反乱が起こり、滅亡

例：郡県制

陳勝呉広の乱 → 項羽と劉邦の争い

【 漢 】：中国文化（漢文化）の成立

基本的に秦の支配を受け継ぐ

But

緩やかな中央集権化（1世紀かける！）

例：郡国制 → 異姓の諸侯を弾圧 → 劉氏の諸王の反乱 → 実質的な郡県制

西域経営

当初は匈奴の属国 → 中央集権化に成功後反転攻勢

< 武帝、張騫、大宛、大月氏など >

これによってシルクロード交易が盛んになる → 漢は繁栄

儒学による支配 → 以後中国王朝の基本理念となる

選挙制度 郷挙里選 → 地方豪族が推薦されて官吏となる（豪族に有利）

【 後漢 】

劉秀（光武帝による建国）

班超による西域経営（甘英を西方に派遣）

豪族の連合政権 → 豪族に有利なくみ

豪族は郷挙里選により、高級官僚となる

裏ルートとして「宦官」「外戚」が存在

この三者が争う = 中央集権の失敗、したがって分裂する

【 【 三国・魏晋南北朝 】 】

【 魏 】

九品中正法 → 中正官による推薦で管理を選ぶ（中央集権を目論む）

「上品に寒門なく、下品に勢族なし」

屯田制の実施 → 荒地に入植・耕作させ徴税

【 北朝（五胡十六国） 】

北方異民族が侵入

→ 華北は戦乱の時代へ

→ 漢民族は南方に逃れるものも出現

【 南朝（東晋 → 宋 → 齊 → 梁 → 陳） 】

貴族文化が流行

占田・課田 → 移民に対する課税

この時代に江南の人口増加、農業の発達 = 穀倉地帯の完成

【 北朝（鮮卑族国家） 】

北魏（均田制）→ 西魏（府兵制）と東魏 → 北周と北齊

※鮮卑族により新しい仕組みが整えられる（新しい時代の幕開け）

鮮卑族は農耕地帯を領土支配 → 漢化政策

この時代に宗教が発達

仏教が広まる、道教の成立

